

産学連携

クルーズ船を活用した実践的授業を実施

商学部 観光産業学科



「若者にとって魅力的なクルーズ船観光プランを提案したい」と意気込む柳田さん



クルーズ船での実践的授業に参加した学生たち

商学部観光産業学科の学生23人が、昨年10月23日(金)～26日(月)に、クルーズ船「つぼ丸」に乗船し、実践的授業を体験しました。この授業は、クルーズ客船による観光振興をテーマに、学生たちが自らの体験に基づいた提案ができることを目的としています。

学生たちは、事前に旅行会社や港湾関連など、さまざまな立場でクルーズ船観光に携わる方々を招いた講義を受け、理解を深めました。乗船中は、寄港地観光に関するセミナーを受講。船員の方々のコミュニケーションや、船内の行動の二つ一つが得がたい学びとなりました。

同学科3年の柳田一成さん(加治木高校)は、「クルーズ船の魅力若者目線で考えながら、航海を体験しました。座学では味わえない発見も多く、貴重な体験になりました」と振り返りました。

この実践的授業の後、学生たちは、それぞれ航海の経験を基にしたクルーズ船観光集客のためのプランを提案しました。

産学連携

九産大生によるスイーツショップが博多駅マイングにオープン!

経済学部 経済学科



試作を重ねた自信作「博多このみパイ」



「お客さまに喜んでいただける店作りを目指したい」と店舗責任者としての目標を語る前田さん



店名「UTOUTO」には、うたを奏するときの心地よさと癒しを感じてほしいとの願いが込められています

経済学部の学生がプロデュースした和モダンスイーツショップが、昨年12月11日(金)に、博多駅のマイングにオープンしました。

古賀市の老舗和菓子店「博多菓匠 左衛門」とのコラボによって生まれたこの店舗の名称は、「博多菓子工房 UTOUTO」。街頭アンケートに基づくマーケティングから、商品開発、ネーミングまで、全て経済学部の学生たちが携わりました。さらに、店舗デザインやロゴの作成には、芸術学部の学生も連携し、オープン後は、左衛門のスタッフの方の指導の下、仕入れや販売、運営も九産大生が行っています。

リーダーとしてプロジェクトを進めてきた経済学部経済学科2年の前田健一さん(自由ヶ丘高校)は、オープン後、店舗責任者を務めています。「二つの店舗を任せられる責任の大きさを感じています。今後は、商学部、経営学部、工学部などとも連携し、九産大の強みを生かして、店舗経営を軌道に乗せたいと思います」と強い決意を語りました。

リーダーとしてプロジェクトを進めてきた経済学部経済学科2年の前田健一さん(自由ヶ丘高校)は、オープン後、店舗責任者を務めています。「二つの店舗を任せられる責任の大きさを感じています。今後は、商学部、経営学部、工学部などとも連携し、九産大の強みを生かして、店舗経営を軌道に乗せたいと思います」と強い決意を語りました。

産学連携

「おれんじ食堂」を利用した産学連携授業を実施

商学部 観光産業学科



「今後も体験型の学修に積極的に参加したい」と永尾さん



停車駅では地元の方々による特産品の販売や太鼓の演奏などが行われました

商学部観光産業学科が、昨年11月4日(水)に肥薩おれんじ鉄道の観光列車「おれんじ食堂」で、産学連携授業を実施しました。この授業は、「鉄道産業プロジェクト演習」の一環で、鉄道を活用した魅力的な観光振興の可能性について考えることが目的です。

学生たちは、事前に沿線の見所や特産を調べ、車内アナウンス用の原稿を作成。当日は車内で、肥薩おれんじ鉄道の淵脇社長による「おれんじ食堂」の説明など、観光列車について学修するためのさまざまなプログラムが行われました。また、準備した原稿は、学生たちがアナウンスし、車窓の風景に合わせて読む難しさを体験しました。

授業に参加した同学科3年の永尾千尋さん(若松高校)は、「ホスピタリティやプロのサービスの技術の高さを改めて感じました。普段、ネットで調べて満足しがちですが、現地に足を運ぶことの大切さを学びました」と収穫を語りました。

産学連携

学生が期間限定の雑貨店をプロデュース

工学部 住居・インテリア設計学科



「今後は、シャッター商店街を建築やデザインで活性化するようなプロジェクトにチャレンジしたい」と意気込みを語る迫田さん



完成した雑貨店「LEAF LETTER」

工学部住居・インテリア設計学科の学生8人が、昨年11月6日(金)～12月25日(金)に、手作り雑貨の店「LEAF LETTER (リーフレター)」をみゆき通りのeast wingに開きました。

諫見研究室の学生たちが、香椎商工連盟と連携して企画・設計・施工したこのプロジェクトは、福岡市ビジネスチャレンジ事業として採択されました。オープンにあたっては、出店者の募集や店舗デザインの調整なども、全て学生たちが行いました。リーダーで、同学科3年の迫田和樹さん(鹿児島工業高校)は、「出店者の雑貨のイメージに合わせて、店舗デザインを実現化するのが大変でした」と苦労を語りました。

オープン後は、ポスターを掲示するなどして、集客にも力を注ぎました。迫田さんは「たくさんの方に来て楽しんでいただき、出店者の方にも喜んでほしいという思いで頑張りました」と、笑顔で話しました。

産学連携

地場企業とのコラボによる試作品をプロモーション

芸術学部 デザイン学科



「お客さまから、4種類あるしょうゆの用途が知りたいなど、具体的なニーズを聞いたのは貴重な体験でした」と語る坂井さん



しょうゆボトルの試作デザイン

芸術学部デザイン学科の学生グループが、昨年10月8日(木)、「むなかた495まつり」(宗像市)で、地場企業との新商品開発、容器デザインなどを来場者に披露するテストマーケティングを行いました。

デザイン学科では、宗像市商工会と「売れる商品デザインプロジェクト」を進めています。これは、さまざまな地場企業と連携し、商品提案、ラベルデザイン、パッケージデザインなどを行うプロジェクトです。

学生たちは、「道の駅むなかた」で試作デザインの披露や商品の販売を行い、消費者の反応を肌で感じました。

しょうゆボトルのラベルをデザインした同学科3年の坂井美優さん(八女学院高校)は、「従来の歴史あるデザインを生かしながら新しいものを目指してきました。今後も消費者の意見を取り入れて、より良いラベルを作りたい」と話しました。

高大連携

西鉄福岡(天神)駅で広告戦略の現地学修を体験



「パソコン上だけで考えるのではなく、実際の空間をイメージすることの大切さを学びました」と語る柴田さん



講師の話に熱心に耳を傾ける学生たち

九産大の学生と九産大付属九州高校の生徒が、昨年9月16日(水)に、西鉄福岡(天神)駅で広告戦略の講義を受けました。

九産大は、西鉄福岡(天神)駅構内で、昨年9月16日(水)～22日(火・祝)の一週間にわたって、ポスターなど複数の大型広告媒体を使ったステーションジャックと呼ばれるプロモーションを実施しました。

現地学修は、このプロモーションを手掛けたクリエイターたちを講師に招いて行われました。広い構内を埋め尽くした広告媒体を前に、コンセプトや効果など、制作者ならではの話に学生たちは引きつけられていました。

現地学修に参加した芸術学部デザイン学科3年の柴田鈴子さん(筑紫女学園高校)は、「講義の前にもポスターは見ていましたが、街中で見ると印象が大きく変わりました。講師の先生方のお話から制作の現場の雰囲気も垣間見ることができました」と貴重な体験を振り返りました。

CONGRATULATIONS!

式典関連 「第16回上野彦馬賞 -九州産業大学フォトコンテスト-」表彰式



張さんの作品「荒れ模様」(5枚組の内1枚)

「これからも、人と社会の関係を表現する写真を撮りたい」と語る張さん



惠原さんの作品「けあらしの朝」



普天間さんの作品「Sunset」

若手写真家の発掘と育成を目的に創設された「第16回上野彦馬賞 -九州産業大学フォトコンテスト-」の表彰式を、昨年11月1日(日)に行いました。

最高賞の上野彦馬賞を受賞したのは、九産大大学院芸術研究科2年の張笑秋さんの「荒れ模様」(5枚組)です。中国の築100年以上の洋風建築の荒廃した室内から、繁栄する中国の陰の側面を透視図のように表現したことが評価されました。張さんは、「心を落ち着かせ、この町のかつての繁栄を想像しながらシャッターを押した作品です。写真を通じて、日中の理解が深まることを願っています」と語りました。

高校生・中学生部門の上野彦馬賞ジュニア大賞には、普天間卓月さん

(沖縄県・浦添工業高校)の「Sunset」が選ばれました。普天間さんは、「夕方のビーチの太陽とパラルルの鮮やかさがうまく出せた作品です。自分でも気に入っている作品で受賞できてうれしいです」と喜びを語りました。

ファミリー部門の最優秀賞は、惠原起世子さん(福岡県)の「けあらしの朝」が受賞しました。惠原さんは、「カメラ教室の撮影旅行で訪れた北海道の釧路湿原で出会った幻想的な風景を収めた作品です。この賞を励みに、好きな自然を今後も撮り続けたい」と笑顔で話しました。

江成常夫審査委員長は、「上野彦馬賞にふさわしいヒューマンな作品が多く見受けられました。若い世代と女性の可能性を感じました」と講評しました。

式典関連 九州産業大学「開学55周年記念式典」開催



一ノ瀬秋久理事長



山本盤男学長



式典後に行われた懇親会の様子



本学は、昨年11月3日(火)祝、「開学55周年記念式典」を開催し、来賓、大学関係者、卒業生など約250人が出席しました。

式典のオープニングでは、55周年を振り返った映像を上映し、代表挨拶の後、親子三世代にわたって入学された方々に感謝の意を表して「親子三世代表彰」を行いました。

また、「ヒューマン・ロボティクス研究センター」や「新規蛍光色素をコア

とした医療分野」の研究報告、産学連携の実践的教育「KSUPロジェクト型教育」の紹介のほか、来年度から大きく変わる芸術学部再編の報告などを行いました。

その後の懇親会では、これまでの55年間を振り返った思い出話に花が咲き、研究成果や事業実績について意見交換が行われ、終始和やかな雰囲気で見交わりの交流を深める場となりました。

【受賞・表彰、催事活動情報】

地域連携 新宮町記念式典でプロジェクション映像を上映

芸術学部 写真映像学科



「式典前日には、会場で機材を調整しました。大切な役割を担っていると、実感しました」と木下さん

映像と生演奏の
コラボレーション

立体地図に投影されたプロジェクション映像



芸術学部写真映像学科の佐野彰教授と同学科学生で構成する「メディアラボ331」が、昨年10月25日(日)、そびあしんぐで開催された「新宮町合併60周年記念式典」において、プロジェクション映像を上映しました。「メディアラボ331」は、映像制作を通じて社会貢献に取り組んでおり、これまでも古賀市や城南区別府校区などから依頼を受けプロジェクション映像の制作・上映を行っています。

今回は、新宮町の新旧住民の交流など「融合」をテーマに、新宮町の発展を表現しました。式典のオープニングでは、映像とテンポの速いアンサンブルの生演奏のコラボにより観客を魅了しました。また、展示では2mを超える立体地図に、新宮町の歴史を振り返るプロジェクションマッピングを行いました。

メンバーの一人である同学科1年の木下理々さん(筑紫中央高校)は、「現場で観客の方の反応を肌で感じることができ感動しました」と振り返りました。

国際交流 MICEプログラムに伴う短期研修のタイ学生と交流

商学部

MICE
ビジネスストラベルの一形態を表す造語で、Meeting(研修・セミナー)、Incentive tour(報奨旅行)、Convention(国際会議)、Exhibition(大規模展示会)の頭文字を取ったもの。一般の旅行に比べて大人数であり、参加者の消費額も大きいことから、各地で誘致活動が盛ん。

タイのチェンマイ大学ほか4大学から学生15人が、昨年9月7日(月)〜12日(土)に、日本のMICE戦略などを学ぶため九産大に来学しました。

九産大商学部は、日本の大学では初めてタイ政府系組織のタイ・コンベンション&エキシビションビューロー(TCEB)とMICE誘致拡大に関する交流覚書を締結しています。今回の派遣は、これに基づく最初の事業です。

タイの学生たちは、官民を挙げてMICE戦略を目指す福岡市の取り組みなどを紹介する講義を受講しました。また、九産大の学生の指導で空手や書道を体験したり、太宰府や柳川を訪問したり、日本の文化や歴史などを学びました。

空手道部や書道部の活動紹介を通じた商学部観光産業学科4年の林みづきさん(香住丘高校)は、「九産大入学後、力を入れていた英語学習が役立ちました。タイの学生たちの熱心に学ぶ姿勢に、私も刺激を受けました」と、笑顔で話しました。



「事前に、福岡の観光地やグルメ、お土産などを調査し、タイの学生たちに紹介しました。とても喜んでいただいていたのが、うれしかったです」と林さん



来学したタイの学生たち

産学連携 工場の「玄関ロビーの“おもてなし”改善」プロジェクトを実施

商学部



「今後も現場で活動できる機会を持ちたい」と吉岡さん

工場の担当者に向けてプレゼンテーションを行いました

玄関ロビーの問題点を討議する学生たち

商学部の学生30人が、昨年11月5日(木)に(株)CKK中津工場を訪問し、科目「プロジェクト入門」の一環として、実践授業に取り組みました。「プロジェクト入門」は、グループワークを通じて、思考力や表現力を育むことを目的としています。

訪問した学生たちは、自動車部品を作る工場を見学。その後、玄関ロビーの現状を確認し、グループごとに「玄関ロビーの“おもてなし”改善」について討議しました。

学生たちは、「明るい雰囲気にするために、花や観葉植物があつたらいい」「製品を紹介するパネルを置いてはどうか」「海外のお客様さま向けに英語表記が必要では」などの具体的なアイデアをまとめ、同社取締役の井澤淳一工場長および川原進司課長に向けてプレゼンテーションを行いました。

この授業に参加した商学科1年の吉岡保乃佳さん(福岡西陵高校)は、「提案理由を説明するなど、説得力のあるプレゼンを心掛けた。若い視点での提案を喜んでいただけたので良かったです」と感想を話しました。

【受賞・表彰、催事活動情報】

受賞
入賞

サガテレビ主催の「第4回CMコンテスト」で作品賞を受賞

芸術学部 写真映像学科



受賞したチーム「93未定」の学生たち



受賞作「母の優しさ」の1コマ

芸術学部写真映像学科の学生グループが、サガテレビ主催の「第4回CMコンテスト」で作品賞を受賞しました。これは、佐賀県内企業の広報の幅を広げることを目的に毎年開催されているコンテストです。

同学科4年の馬渡聖央さん（龍谷高校）、3年の青木和さん（筑陽学園高校）、川越千穂さん（宮崎西高校）、2年の小島井健泰さん（白石高校）の4人は、チーム「93未定」を結成し、馬郡蒲鉾株式会社（佐賀市）の商品「ミンチ天」をPRするCM映像を制作しました。タイトルは「母の優しさ」。一人暮らしをしている大学生のアパートに、佐賀の母親から手紙と「ミンチ天」が送られ、懐かしむという大学生ならではのストーリーです。

リーダーで佐賀県出身の馬渡さんは、「地元コンテストを盛り上げることができて良かったです。今後もさまざまな映像コンテンツにチャレンジしたい」と話しました。

受賞
入賞

平成27年度「全国地域安全運動モデルポスター」(一般の部)で最優秀賞を受賞

芸術学部 デザイン学科1年 深町 一登さん(城南高校)

芸術学部デザイン学科1年の深町さんが、福岡県安全・安心まちづくり県民の集い実行委員会主催の「平成27年度全国地域安全運動モデルポスター」(一般の部)で、最優秀賞を受賞しました。このコンクールは、一般の部においては、昨年に引き続き、本学の学生がすべての賞を独占しました。

最優秀賞を受賞した深町さんの作品は、地域防犯をテーマにしたものです。いろいろな職業の人が、親しみやすいタッチで描かれ、地域の人の絆による犯罪の防止を呼び掛けている。

受賞した深町さんは、「イラストの人物を中央に配置するなど、見やすさにこだわりました。今後も、コンペ等に積極的にチャレンジしたいですね」と受賞の喜びを話しました。



【最優秀賞】深町 一登さん(城南高校)
【優秀賞】柳生 萌子さん(大分高校)、宮柱 穂子さん(九産大付属九州高校)
【佳作】吉住 彩美さん(唐津東高校)、中川 智尋さん(創成館高校)
田村 あやのさん(福岡西陵高校)、安達 賢輝さん(鞍手高校)

受賞
入賞

日本ベンチャー学会「第10回清成忠男賞論文部門(本賞)」受賞

経営学部 産業経営学科 木村 隆之講師



「思いがけなくベンチャー学会の権威ある賞を頂き、驚きました」と笑顔で語る木村講師

経営学部産業経営学科の木村隆之講師が日本ベンチャー学会「第10回清成忠男賞論文部門(本賞)」を受賞しました。

「清成忠男賞」は、ベンチャー企業や企業家支援活動等に関する優秀な論文・著書に対して贈られるものです。

木村講師が受賞した論文は、「遊休不動産を利用した「利害の結び直し」として読み解かれるソーシャル・イノベーション」。この論文で、木村講師は、遊休不動産(空き家)を軸に、それに関わる人や事情を把握し、メリットを提供することで価値を生み出す地域活性化の実現を提唱しています。

木村講師のこの研究は授業の中でも生かされており、学生たちは最先端の研究事例を学ぶことができます。木村講師は、「学生の皆さんが地域活性化に関わるプロジェクトを行うときにも、私の知見を伝えます。社会的課題を掲げることの意義と、そこから生まれる喜びを、学生の皆さんも実感してください」と、学生へのメッセージを述べました。



地域
連携

女子学生の会「KSUGL」が「こどもがつくるまちミニふくおか」に参加



「女子同士の交流ができる「KSUGL」の活動は楽しいですよ！今後もいろんなことにチャレンジしていきます」と篠原さん

キッチン用品で演奏

「ゆかた着付けプロジェクト」

九産大女子学生の会「KSUGL」が、昨年8月26日(水)・27日(木)に九電記念体育館で開催された「こどもがつくるまちミニふくおか」に参加しました。「ミニふくおか」は、平成24年度から始まった福岡市の事業で、子どもがつくる仮想のまちがテーマです。子どもたちは、住民登録を行い、働いたり、稼いだお金で遊んだり、買い物をしたりと、現実の生活を模した体験を楽しみます。

KSUGLは、お菓子の作り方や販売方法を教える「食堂・飲食店改善プロジェクト」、キッチン用品での演奏パフォーマンスを教える「とびだせ！くすぐるちゃんプロジェクト」など4つのプロジェクトで参加しました。

演奏パフォーマンスで参加した商学部観光産業学科3年の篠原恵さん(福岡大学附属若葉高校)は、「子どもたちが一生懸命練習してくれました。皆さんに喜んでもらえるパフォーマンスができました」と笑顔で語りました。

地域
連携

学生ボランティアが東日本大震災の被災地を訪問

九産大ボランティア愛好会ひまわりの学生17人が、昨年9月20日(日)〜23日(水・祝)に、東日本大震災の被災地を訪問しました。

学生たちは、岩手県陸前高田市の語り部である釘子明さんの震災体験談を聞いたり、「大槌まつり」の運営のお手伝いをするなど、被災地の方々と交流を行いました。また、学生が昨年9月に募った募金を、釜石市の「こすもす公園」の運営資金として寄贈しました。

リーダーの工学部物質生命化学科2年の佐藤浩史さん(日向高校)は、「祭りの時など、気軽に声を掛けてくださる東北の方々に、前向きに生きる姿勢を感じました。でも、まだまだ復興への支援が必要です。心の復興への道は人それぞれで、目には見えにくい。今後も東北での活動を続けていきます」と力強く語りました。



「こすもす公園」の修繕・清掃を手伝う学生たち



「大槌まつり」に参加し、地域の方々と触れ合いました

「東北の現状を、福岡の人たち、特に九産大の仲間にも伝えたいと思います。そしてみんなができることを考えましょう」と呼び掛ける佐藤さん

受賞
入賞

「第8回雪のデザイン賞」奨励賞受賞

芸術学部 デザイン学科3年 田中 秀行さん(東筑紫学園高校)・同学科2年 富永 琴美さん(東筑紫学園高校)



受賞作品「Luce」

芸術学部デザイン学科3年の田中さんと同学科2年の富永さんの共同作品「Luce(ルーチェ)」が「第8回雪のデザイン賞」で奨励賞を受賞しました。この賞は、雪や氷のさまざまな形や現象をモチーフにしたデザイン作品のコンペです。プロのアーティストを中心とした200点超の応募作品の中から、学生での入賞という快挙となりました。

受賞作は、700本以上のストローとLEDを使ったシャンデリアで、明かりをともすと、中心から淡い光が漏れ、舞う雪のきらめきと柔らかさを伝えてくれます。

制作は、富永さんのストローを使った過去の作品に着目したところから、富永さんが素材やアイデアを考え、田中さんがそれを発展させ設計し、二人で作品をつくり上げました。

田中さんは「今後も人の心を動かせる作品を目指したいと思います」、富永さんは「さまざまな素材を見つけて、その可能性を生かしたものがつくりたいです」と抱負を語りました。

スポーツ

サッカー部が第64回全日本大学サッカー選手権大会出場

CONGRATULATIONS!



サッカー部の部員たち



「今後も、九産大らしい速いパス回しのサッカーを刷いていきたい」と話す藤永さん

九産大サッカー部は、第30回九州大学サッカーリーグで、3位に入賞し、第64回全日本大学サッカー選手権大会に出場を決めました。全日本選手権大会出場は2年連続となります。

サッカー部は、「本気、覚悟、成長」をスローガンに掲げ、サッカーの技術向上はもちろん、グラウンド以外の規律の徹底にも力を注いできました。キャプテンの藤永恭平さん（経済学部経済学科4年、筑紫台高校）は、「オフザピッチの充実が、サッカーに取り組み姿勢を変えました。試合でも粘り強さを発揮できるようになったのは、その成果だと思います」と、取り組みの手応えを語りました。

そして、昨年12月8日（火）に迎えた、第64回全日本大学サッカー選手権大会の札幌大学との一回戦。終盤まで拮抗した戦いを続けていましたが、残念ながら2対3で惜敗しました。皆さまのご声援ありがとうございました。

スポーツ

九産大バスケットボール部 第67回全日本大学バスケットボール選手権大会出場

CONGRATULATIONS!

今年、部員が増え、トップチームとサテライトチームの2チームを編成し、練習を重ねてきたバスケットボール部。キャプテンの本部達也さん（商学部商学科4年、九州学院高校）は、「紅白戦も可能になり、練習の幅が広がりました。接戦にも強くなったことが、今回の結果につながったと思います」と力強く話しました。

東京で、昨年11月23日（月）に行われた「第67回全日本大学バスケットボール選手権大会」では、一回戦で関東2位の拓殖大学と対戦。63対97で勝利を逃しましたが、その健闘に惜しめない拍手が送られました。皆さまのご声援ありがとうございました。

「部のスローガンは、「全国で一番応援されるチームになる!」。皆さん、今後も応援よろしくお祈りします!」と笑顔で呼び掛ける本部さん



バスケットボール部の部員たち

九産大バスケットボール部が、第67回全日本大学バスケットボール選手権大会に出場しました。全国大会への出場は5年ぶりです。

九産大は、昨年9月5日（土）～10月11日（日）に開催された第22回全九州大学バスケットボールリーグ戦で3位に。下部リーグから勝ち上がった鹿屋体育大学との全国大会出場をかけた対戦では、一勝一敗となりましたが、得失点差で、全国大会への出場権を勝ち取りました。

スポーツ

準硬式野球部が秋季リーグ戦を全勝で優勝

CONGRATULATIONS!



「現状に満足することなく、チーム力を向上して、全国を目指します!」と力強く語る矢田さん



準硬式野球部の部員たち

九産大準硬式野球部が、昨年8月から10月にかけて開催された福岡県大学準硬式野球秋季リーグ戦で、10試合全てに勝利、優勝しました。2季連続39回目の優勝です。

新チーム発足から、全勝優勝を目標に掲げて練習を重ねてきた準硬式野球部。キャプテンの矢田将敬さん（経済学部経済学科3年・南陽工業高校）は、「少ないチャンスでも生かせるように、バッティングと走塁の練習に力を入れてきました。試合では、その成果を発揮することができました」とリーグ戦を振り返りました。

準硬式野球部は、昨年11月21日（土）に行われた第19回九州地区大学準硬式野球秋季大会決勝戦で、熊本大学に9対3で快勝し、優勝。平成28年度全日本大学準硬式野球九州選手権大会のシード権を獲得しました。今後は、来年の全国大会出場を目指して、さらなる強化に努めていきます。

九産大の皆さんからの情報をお待ちしています!

「+K(プラスケー)」は九産大の「今」を伝える広報誌です。九産大総合企画部では皆さんのさまざまな活動や取り組みの情報を募集しています。右記アドレスまで、お気軽にご連絡ください!

pub10@ip.kyusan-u.ac.jp